

大和ブロック

「小中の連携を深め 児童生徒の 教育課題についてともに考えよう」

I テーマ設定の理由

これまで、授業参観等を通して児童生徒の具体的な様子を話題としながら、児童生徒の学習課題・生活課題について話し合うことで、小学校・中学校の連携のあり方について探ってきた。

今年度も、これまでの内容をもとに、小学校・中学校連携の意義の確認と児童生徒の抱える様々な教育課題について、小中学校の教職員がともに考えることで、連携を深めることができると、このテーマを設定した。

II. 研究の内容

1 第1回ブロック交流研究会

- (1) 日時 8月13日(水)
- (2) 会場 大和ふるさと会館
- (3) 内容 「小学校・中学校相互による情報交換」
 - ア 今年度のブロックの研究テーマと活動計画について
 - イ 中学1年の学習状況について
 - ウ 中学1年の生活・行動についての情報交換

2 第2回ブロック交流研究会

- (1) 日時 11月 5日(水)
- (2) 会場 大和中学校
- (3) 内容 「小学校の教職員による、大和中学校の授業参観と情報交換」
 - ア 小学校教職員による中学校の授業参観
 - イ 中学校の授業参観を通しての意見交換

3 第3回ブロック交流研究会

- (1) 日時 1月14日(水)
- (2) 会場 大和小学校
- (3) 内容 「中学校の教職員による、大和小学校の授業参観と情報交換」
 - ア 6年生の児童についての情報交換。
 - イ 地域の課題の共有
 - ウ 今年度の研究のまとめ

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- (1) 第2回目の交流研では、小学校の教職員が中学校の授業参観を、第3回の交流研では、中学校の教職員が授業参観を行い、それぞれの学校の児童生徒一人ひとりの様子を知ることができた。
- (2) 小中学校のブロック研究を通して、連携の大切さは十分に共通理解された。また、それぞれの学校の抱えている教育課題について、共通理解が進んだ。
- (3) 児童生徒の教育課題を検討討議していく中で、学校の課題だけでなく地域の課題についても話し合い、それを小中で共有することができた。
- (4) 小学校中学校の特別支援教育についても、話し合いを持つことができた。

2 課題

- (1) 小中学校の連携の大切さについては、過去の取り組みによって明らかになってきた。今後は、より具体的な連携の方法・内容について深く研究を進めていく必要がある。
- (2) 学習指導要領改訂に伴い、小中学校で相互の学習指導内容を理解し、学習指導の充実をはかる。学習内容・指導法など9カ年の連続性を考えて計画的・継続的・系統的に学習指導に活かしていけるとよい。
- (3) 小規模校の特性を活かし、児童・生徒一人ひとりに目を向けた指導・支援の連続性について考える。
- (4) 小学校から中学校への学習・生活についてのハードル（ギャップ）を子どもたちが乗り越えて行けるような具体的な支援について考える。
- (5) 地域の特産物・産業や名所旧跡などの隣地研修などの学習会を行い、より地域の様子を理解する事も必要である。

(ブロック長 高添 勉)